

学校の防犯・安全対策事情

門扉は施錠を原則とし外来者の確認を徹底

不審者の侵入を阻止

既設の門扉に電気錠を推奨!!

校内への不審者侵入による痛ましい凶悪事件を背景に児童・生徒の学校内安全対策の向上を目的として、監視カメラの設置と校門など出入口に電気錠（オートロック）導入を進める動きが高まっています。特に不審者の侵入口となりえる門扉の施錠は最も重要であり、職員室から遠隔操作で錠の解錠ができる電気錠を求める声が多く、既存門扉に後付け工事が可能で消費電力も少ない「防水電気錠」（システム価格2.9万8200円）を開発、販売する事となりました。

犯罪者の過半数は事前に侵入口の確認や無施錠箇所の確認など下見をしますと言います。犯罪者は人の目を嫌うので、地域の人々と密着して防犯意識を高めるのはもちろんですが、やはり門扉には施錠をすることが

侵入を妨げる第一歩です。しかし、南京錠やカンヌキでは来校者が来る度に教頭先生が鍵を開けに走るといったお話をよく耳にします。また訪問者が帰る時も毎回同じ作業が回ります。



職員室で相手を確認し、その場で解錠。教頭先生が走ることもありません！

そこで登場したのが職員室など離れた場所から操作ができる「防水電気錠」です。常に電力を消費し続けるマグネット式とは異なり、完全防水型のラッチ方式を採用することで、解錠ボタンを押した時の数秒間だけ電気を使う仕組みで経済性と安全性を高めています。また、マグネット式では停電時など電力が切断されるとロックとしての機能も停止してしまいますが、ラッチ方式では停電時もしっかり施錠を続けます。

カメラ付きインターホンや監視カメラシステムと組み合わせれば外来者が門のインターホンを押すとモニ

ターに映るので職員室に居ながら相手を確認して、開錠ボタンを押せば、その場で電気錠のロックを解除することができます。（門は自動的に施錠されず）訪問者が帰るときは、門に設置してある一時開錠スイッチを押して退出、外に出て門を閉めると再び施錠され管理も簡単です。

